

磯部鉄工、第2工場完成

機械装置・特殊鋳物 受注体制を強化

本 社

川金ホールディングスグループで産業用機械装置製作や特殊鋳物製造を行う磯部鉄工（本社：山口県下関市、荒木逸治社長）は、本

社で建設を進めてきた第2工場が完成した。大型産業用機械装置の製作や特殊鋳物の受注体制を強化することも新たに導入した大型の縦型旋盤による省力化や合理化、生産性向上も図る。



竣工やあいさつする荒木社長

第2工場は既存場の北東に建設し、同規模の延べ床面積約263平方メートルの工場とともに奥行きが約70メートル、最大幅約55メートル、最大積載重量200トン、超耐摩耗・耐熱特殊鋳物を製造する小倉事業所（北九州市小倉北区）よりも大型の設備を設置。BCP（事業継続計画）対応や受注体制を強化したほか、自動化も可能で今後は2拠点で最適化を進める。

2・8メートルの天井クレインを基準とえ、芝浦機械製のターニングセンター「TSS-1C」を導入。ワーク最大径の5500ミリ、最大積載重量200トン、超耐摩耗・耐熱特殊鋳物を製造する小倉事業所（北九州市小倉北区）よりも大型の設備を設置。BCP（事業継続計画）対応や受注体制を強化したほか、自動化も可能で今後は2拠点で最適化を進める。



本社第2工場外観①、導入した大型縦型旋盤

業継続計画）対応や受注体制を強化したほか、自動化も可能で今後は2拠点で最適化を進める。

屋根には太陽光発電設備を導入。総使用電力の4割超を賄い、年間77・7万キロワット時の二酸化炭素（CO2）削減効果とした。

9日、竣工式を開催し、40人が参加。荒木社長は「本社では移転以来、34年ぶりの大型投資。高度化するニーズに応えるため決断した。拡張するニーズへの対応力を上げ、安全性や生産性、さらなる品質向上を願いつつ、社員が誇りと希望を持つる環境も提供。ものづくりを通じて世の中に貢献し、次の100年を目指して明るく元気な挑戦を続け、全てのお客様の期待に応えていく」とあいさつ。

川金ホールディングスの鈴木信吉社長は「磯部鉄工は112年の歴史を持つ。歴史と対照的に大型の縦型旋盤をはじめ最新の設備を備え、今後も取引先や地元の皆さまの期待に添える素晴らしい工場に育ってほしい」と期待を寄せた。その後、設計施工を担当したJFEシビルに感謝状が贈呈され、施工者あいさつで門田純社長は「環境に配慮され、省エネ性能にも優れた建屋。アフターフォローも責任を持って対応させていたただく」と述べた。